

# フォトコンテスト審査会

と き 令和2年10月1日(木)

ところ 山口県医師会6階会議室

[報告:常任理事 長谷川 奈津江]

対外広報事業として、「いのち きずな やさしさ」をテーマにしたフォトコンテストを今年度も開催した。11回目となる今回から新たな試みとして、応募者を「山口県内在住の方のみ」に限定させていただいた。また、過去に当コンテストの受賞歴がない方を対象にした「新人賞」を設けた。応募を限定したことから作品が減少するのではないかと懸念していたが、昨年(55名、139作品)よりも多い、63名の方から、計151作品のご応募をいただいた。

今回も審査委員長として、平成27年に写真集『結界』で第34回土門拳賞を受賞された萩市在住の写真家 下瀬信雄 氏を迎え、審査員には河村康明 会長、今村孝子 副会長、藤原 崇 理事、そして広報委員の渡邊恵幸 先生、岸本千種 先生、石田 健 先生、吉川功一 先生、岡山智亮 先生にお願いした。

審査会当日、会議室に並べられたすべての作品を見てみると、愛情の込められた、心を癒してくれる写真ばかりであった。この中から、最優秀賞、優秀賞、下瀬信雄賞、こども賞、新人賞各1点及び佳作4点の計9点の選考を開始した。

審査方法は例年同様、まず、各審査員に付箋9枚を配付し、自分が気に入った作品に貼るといふものである。各審査員はそれぞれの感性を活

かして、真剣な面持ちで次々に付箋を貼り付けていった。力作揃いで年々、選ぶのが困難になってきており、皆さん、悩みに悩んで選ばれている姿が印象的だった。付箋が貼られた作品を集め、下瀬審査員長の進行のもと、審査が進められた。被写体の表情、構図、光の使い方だけでなく、それらを通して伝わる撮影者の「伝えたいメッセージ」がわかる、あるいは「発見」や「感動」がはっきり出ている作品が審査員の心を捉えたようである。審査開始から約40分後、最優秀賞、優秀賞、下瀬信雄賞、こども賞、新人賞の各1点及び佳作4点の各受賞作品が決定した。

なお、受賞作品については、例年であれば11月に開催している県民公開講座にて表彰式を行うとともに、下瀬審査委員長に講評を行っていただき、全応募作品を展示していたが、今回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から県民公開講座の開催が中止となったため、これに伴い表彰式並びに作品の展示も中止とさせていただいた。

その代わりとして、ここに下瀬先生の講評並びに受賞作品を掲載させていただくこととする。

ご応募いただいた皆さま、審査員の皆さまに深く感謝いたします。



## 講 評

当コンテスト審査委員長／写真家 下瀬 信雄

### 〈総評〉

「いのち、きずな、やさしさ」をテーマとしたこのコンテストも11回を数え、年々レベルも上がり、素晴らしい作品が集まるようになってきた。多くの応募作品が身の回りのちょっとした出来事や、家族の日常に目を向けて、キラリと光る一瞬をとらえた作品で、このコンテストを特徴付けている。まさにその人でなくては撮れない写真たちで、一人ひとりにとってのかけがえのない宝物がここには詰まっているようだ。

### 最 優 秀 賞



「ぎあああ」

本人にとっては災難が降りかかっているのに、周りのみんなは笑っている、というのが見えるような気がする。そんな状況まで感じさせる臨場感ある写真。

お母さんが我が子を撮ったものだろうか？男の子は文句なくカブト虫が好きだが、女の子はどうなんだろう？などと想像も膨らむ。

願わくばこれを機に虫嫌いにならなくて、虫たちと一緒に遊んでくれるたくましい子になって欲しいと思う。

## 優 秀 賞



「安寧を祈る玉せり」

宮司の持ってきた玉を競る神事「玉せり」や「玉せせり」は勇壮で、正月神事としてよく写真の題材に選ばれる。この日は天気も良く、絶妙なアングルで状況や人々をよく捉えている。

## 下瀬信雄賞



「新年のお祝い」

新年の禊の前だろうか、晒しは風に靡いているので水に濡れている感じがしない。これから厳しい寒行が待っているのだろうか、などと考えてしまう。

大人たちに混じってたくましく笑っている子供たちの表情がとても良い。思わず「頑張れ子供達」と声援を送りたくなる。



佳 作



「ワーイ 大漁だ！」

魚を運んでくるミサゴのたくましい姿、待っている二羽の幼鳥、家族の営みを青空をバックに描き出した美しい一枚。



「緊張」

大きなサラブレッドとまだ少女のように見える騎手の後ろ姿。まるで映画のワンシーンのように光の中に踏み出した一歩が際立つ美しい一瞬。



「和もコロナ対策」

今年ならではの感染症対策は様々な場面で象徴的に現れ、写されてきた。新型コロナウイルスが早く収束して欲しい、そんな願いが込められているのだろう。コロナ禍の中にも少しのユーモアが必要なのがよくわかる一枚。



「狭小畔みちの苗運び」

田植えの頃の田んぼ、向こうの棚田は田植えが終わり、手前の代掻きが終わったところこれから植えるのだろう。棚田と畦道の曲線、鏡の水田が美しい。

## こども賞



## 「やっと出会えたね」

待ちに待った赤ちゃんだったのか、難産だったのか、面会がなかなかできなかったのだろうか。写したのが子供さんなので、3人兄弟の一番上の子が下の子2人を写したのだらうと思われる。手をそっと、おそるおそる伸ばしている感じがよく伝わってくる。

## 新人賞



## 「今日はひいおばあちゃん105歳の誕生日会 僕がセットしてあげるね～」

5歳のひ孫とのツーショットが撮れるのも長生きしたおかげ、それに今日のこの日はこの子にとっては多分一生忘れない出来事になることだろう。

何よりこの写真があればこそ、折あるごとに家族で話題になることだろう。さりげないショットだが写真の持っている力を感じさせる一枚。